

東京,2018.02.23-24

生殖医療現場における統合医療の現状と意義～心理臨床の視点から～

田中久美子 (タナカ クミコ)、松田明子 (マツダ アキコ)、阿江大樹 (アエ ダイキ)、馬場綾美 (ババ アヤミ)、重舛知佳 (シゲマス チカ)、室谷有紀 (ムロタニ ユキ)、姫野隆雄 (ヒメノ タカオ)、(森本義晴 (モリモト ヨシハル) )

所属 : HORAC グランフロント大阪クリニック

【はじめに】当院における統合医療の現状と実践、および心理臨床の立場から見えている統合医療の意義について報告する。

【対象】2015 年開院から 2017 年 12 月までに、統合医療を受けた患者 (施術、運動療法、カウンセリング) を調査した。

【結果】当院における統合医療の提供メニューは、大きく 3 つに分類される。運動系、施術系、カウンセリング系のプログラムがあり、胚質改善・着床改善・血流改善など妊娠体質になることを目的としている。患者の活用が多いのはどの年度においても共通して、施術系 (受胎鍼・低出力レーザー、受胎リフレクソロジー、ファータイルアロマセラピー) であり、初年度のべ 1296 人、2016 年度 1964 人、2017 年度 2688 人と利用数は年々増加している。運動系は、ミトコンウォーク、ファータイルストレッチ、ヨガと 3 つのプログラムを提供しており、施術系同様、のべ 559 人、1022 人、1902 人と利用数の増加が認められる。カウンセリング系は、統合医療コーディネーター、栄養療法、心理療法、遺伝カウンセリングを提供しており、のべ 984 人、1744 人 1702 人の活用があった。患者アンケート結果からは習慣 (運動や食生活)、体調 (血流、冷え、睡眠、便秘)、心理面 (夫婦関係、気分の安定) の変化を体験していることが示唆された。

【考察】不妊の問題はいまや社会問題である。家族、友人、職場や社会といった場で、ストレスを抱え、治療を継続している患者にとって、医療スタッフのみならず、専門性の異なった複数のスタッフにサポートされる体験は、それ自体が大きな holding enviroment(抱える環境)である。アプローチの仕方が異なる統合医療スタッフが複合的に統合医療メニューを提供できることは治療中の患者にとって大きな意義があると考えられる。